

## 故郷(ふるさと)

作詞 高野辰之  
作曲 岡野貞一

一  
うさぎお  
兎追いしかの山 やま

こぶなつ  
小鮒釣りしかの川 かわ

ゆめ いま  
夢は今もめぐりて

わす ふるさと  
忘れがたき故郷

二  
いかに ちはは  
如何にいます父母

つつが とも  
恙なしや友がき

あめ かぜ  
雨に風につけても

おも い ふるさと  
思い出ずる故郷

三  
こころを  
志をはたして

ひ かえ  
いつの日にか帰らん

やま あお ふるさと  
山は青き故郷

みず きよ ふるさと  
水は清き故郷

## 朧(おぼろ)月夜

作詞 高野辰之  
作曲 岡野貞一

(前奏あり)

一  
な はなばたけ  
菜の花畠に 入りひうす

み やま は かすみ  
見わたす山の端 霞ふかし

はるかぜ ふ そら み  
春風そよ吹く 空を見れば

ゆうづき にお あわ  
夕月かかりて 匂い淡し

二  
さと ほかげ もり いろ  
里わの火影も 森の色も

たなか こみち ひと  
田中の小路を たどる人も

かわず な かね おと  
蛙の鳴くねも 鐘の音も

かす おぼろづきよ  
さながら霞める 朧月夜

## 紅葉(もみじ)

作詞 高野辰之  
作曲 岡野貞一

一  
あき ゆうひ て やまもみじ  
秋の夕日に照る山紅葉

こ うす なか  
濃いも薄いも数ある中に

まつ いろ かえで つた  
松を色どる 楓や鳶は

やま すそもよう  
山のふもとの裾模様

二  
たに なが ち う もみじ  
溪の流れに散り浮く紅葉

なみ はな よ  
波にゆられて離れて寄って

あか きいろ いろさまさま  
赤や黄色の色様々に

みず うえ お にしき  
水の上にも織る錦

## 花(はな)

(前奏あり)

作詞 武島羽衣  
作曲 瀧廉太郎

一  
春のうららの隅田川  
はる すみだかわ

のぼりくだりの船人が  
ふなびと  
かいかい  
權のしずくも花と散る  
はなち  
眺めを何に喩うべき  
ながた

二  
見ずやあけぼの露浴びて  
み つゆ

われにもの言う桜木を  
い さくらぎ  
み  
見ずや夕ぐれ手をのべて  
て  
われさしまねく青柳を  
あおやぎ

三  
錦織りなす長堤に  
にしきお ちようてい

暮るればのぼるおぼろ月  
く づき  
げに一刻も千金の  
いっこく せんぎん  
眺めを何に喩うべき  
ながた

## 荒城(こうじょう)の月

作詞 土井晩翠  
作曲 瀧廉太郎

一  
春高樓の花の宴  
はるこうろう はな えん

巡る盃 かげさして  
めぐ さかずき  
ちよまつ  
千代の松が枝わけ出でし  
い  
むかし ひかり  
昔の光 いまいずこ

二  
秋陣営の霜の色  
あきじんえい しもいろ

鳴きゆく雁の数見せて  
なかり かずみ  
う つるぎ  
植うる剣に照りそいし  
て  
むかし ひかり  
昔の光 いまいずこ

三  
いま荒城の夜半の月  
こうじょう よわ つき

替らぬ光誰がためぞ  
かわ ひかりた  
垣に残るはただ葛  
かき のこ かずら  
まつ うた  
松に歌うはただ嵐  
あらし

四

天上影は替らねど  
てんじょうかげ かわ  
栄枯は移る世の姿  
えいこ うつ よ すがた  
うつつ  
写さんとか今もなお  
いま  
ああこうじょう よわ つき  
嗚呼荒城の夜半の月